



# YMCA

## 大阪青年

2007 Dec. 12  
No. 601

月刊 The YMCA 付録  
編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町 7 番地  
大阪青年 発行 : 末岡祥弘 編集 : 大阪 YMCA 広報室  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1-5-2  
TEL 06-6441-0894 FAX 06-6445-0297  
URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
(年10回発行) 1947 年 10 月 27 日 第 3 種郵便物認可

2007 年度年間聖句  
「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。  
どんなことにも感謝しなさい」  
(テサロニケの信徒の手紙 1 5 章 16~18 节)

### 大阪 YMCA の使命

大阪 YMCA は、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCA の世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

# こよい 神の御子は今宵しも 「いざや友よ、もうともに、いそぎゆきて拝ますや」 讃美歌 111 番

街々でのクリスマスが年毎に早くなり驚いています。私は去る 10 月 23 日夜、「中百舌鳥」で開催された泉北ワイズの例会にゲストとして招かれ、途中「天王寺」を通ったのですが、デパート前に巨大なツリーが飾られ、全壁面のサンタやトナカイの電飾共々きらびやかに輝いていました。おそらく全市内のトップを切って阿倍野がクリスマス入りをしたのでしょう。スピーカーから流れてくるラテン語の有名な讃美歌「アデステ・フィデレス」の曲を耳に「いそぎゆきて泉北へ」参上しました。この歌は「きよしこの夜」「荒野のはてに」と並んで私の三大クリスマス愛唱歌で数多くの CD を収集していますが、最近は世界的なテノール歌手パバロッティがロンドン少年合唱団とフィルハーモニア管弦楽団をバックに歌ったものを聴いています。最近彼が天国へ旅立った感傷があるからです。

さて、「上を向いて歩こう」で有名な坂本九さんは御巣鷹山での日航機墜落事故で犠牲となられたのですが、彼の追悼コンサートで次のようなテロップが流れています。「人生は歌から歌への旅かもしれない、そして歌は人



生から人生への架橋」。

私達の大阪 YMCA は 125 周年の歴史を重ねてきました。土台に一貫して流れているのは堅固なる守り主、先立って導かれる主イエスへの信仰です。そしてこの信仰の表明が礼拝と讃美なのです。YMCA は歴史を通じて常に礼拝を奉げ讃美を高らかに歌いつづけてきました。そこに私達の存在の基礎があるからです。特にクリスマスは各集会で礼拝が行われます。私自身も大阪 YMCA の会員として過した四十数年、数

多くのクリスマス礼拝に参加し「神の御子は今宵しも」と歌ってきました。南 YMCA での最初のクリスマスは当時の尾形繁之理事長、岩越重雄理事、世戸一夫館長の隅っこで歌ったものです。ここ数年は一昨年天国に召された咸仁公南 YMCA 運営委員長のリーダーシップで歌ったシーンが胸に焼き付いています。今年も喜びをもって讃美し、確実に次世代の青年、少年たちに歌いついでいきたいものです。「そして讃美歌は会員から会員への架橋」。

社会福祉法人大阪 YMCA 福祉会理事長

まつおか けんいち  
松岡 虔一

### 地の塩

クリスマスになる毎に  
思い出す降誕劇（ペー  
ジエント）がある。半世  
紀ほども以前に観た、  
黒人によるオペレッタ  
である。天使、羊飼い、三人の博士  
等、日頃みなれた場面や人物の  
登場はあるものの、その演出のハイ  
ライトは宿屋の主人であった。  
宿を求めて、一戸また一戸と扉  
をたたくヨセフとマリア。堅く閉  
ざした扉の中からきこえてくるの  
は、何れも「ノールーム！」の一  
声。「私は忙しいのだ」「お前と  
関わる余裕など無いのだ」の意思  
をあらわに、ある声は高く、ある  
声は低く、一様にそつけなく、  
つづけんどんに、威丈高に。  
右往左往するヨセフとマリア。  
二人を圧倒して繰り返される  
「ノールーム！」の大合唱。その  
声がピタッと止まって静まり返  
る。その時、沁みこむようなアル  
トが、ささやくように「もし馬小  
屋でよかつたら」。

その瞬間、そつと開かれたわず  
かな扉の隙間から、神の愛の光が  
差し込む。全世界が照らし出す希  
望の光が注ぎ込まれる。たちまち  
湧き上がる賛美の歌声。ホールを  
圧して響き渡る歓喜の大合唱。  
忘れられないものである。(K)